

# 加地亮選手がサッカー W 杯に出場

## 応援ムードに包まれる

サッカー・ワールドカップ（W杯）ドイツ大会に南あわじ市出身の加地亮選手が日本代表として出場し、攻守にわたり活躍しました。加地選手を応援しようと、各方面から様々な応援イベント等が行われ、開催前から島内は応援ムードに包まれました。



▲ドイツまで届けと大声で応援する子どもたち（湊幼稚園）



▲力強い「ニッポン」「カジ」コールで応援する来場者（西淡公民館でのスクリーン観戦会）

### まちをあげての応援

五月十五日に代表入りが決まってから早速、市役所の各庁舎と湊小学校、西淡三原インター前などに懸垂幕や横断幕が設置されました。

市役所の西淡総合窓口センターでは六月一日から職員らが勝利を願って、代表カラーのTシャツを着用し、窓口業務にあたりました。

また、加地選手が使っていたユニフォームや靴などゆか



▲代表カラーのTシャツを着用し、業務にあたる市職員（西淡総合窓口センター）

りの品々を展示した「加地亮展」を西淡公民館で六月一日～二十二日まで開催。多くの人が訪れました。

南あわじ市体育協会では、加地選手へ応援メッセージを届けようと寄せ書き用の国旗を西淡庁舎に設置。「世界一を目指して頑張れ」「南あわじ市の誇りです」など市民からの熱い思いが一面に書き込まれました。

さらに、淡路瓦工業組合では、応援メッセージが刻印された「いぶし瓦」のサッカーボールを製作しました。



▲印の「瓦」が刻印された「いぶし瓦」のサッカーボール

### ケガの早期回復を祈って 千羽鶴を作成

加地選手は、五月三十一日（日本時間）、W杯開催前に行われたドイツとの親善試合で、足首をねんざ。試合後、代表メンバーとは別メ



▲千羽鶴を加地久子さんに手渡す子どもたち

ニューで調整していました。これを受け、母校・御原中学校と湊小学校の児童生徒がケガの早期回復の祈りを込め

て千羽鶴を作成。

このかきもあつて、六月十九日のクロアチア戦と六月二十三日（日本時間）のブラジル戦にはフル出場し、惜しくも決勝トーナメント出場は逃したものの、攻守にわたり活躍しました。

### 青少年の目標となった

加地選手が通った湊小学校と湊幼稚園では、全児童・園児ら約二百人で国旗に応援メッセージの寄せ書きを作成。六月八日、加地選手の母・久子さんに「早くけがが良くなって試合で頑張ってください」と手渡しました。

湊小学校・三浦孝章校長は

出席した児童・園児らに「加地くんは小学校のころから手を抜かず、頑張っていた。皆さんも加地選手みたいに世界で活躍できるように、勉強やスポーツを一所懸命頑張ってください」と話しました。

会場では、園児らが作成した応援メッセージ入りの壁画（縦一・五m、横六m）も飾られ、最後に全員で「ドイツまで声を届けよう」と大きな声で「アキラがんばれ」などとエールをおくりました。

これらの加地選手への応援メッセージを込めた品々は加地久子さんの手でドイツへ持ち込まれ、スタンドから勇姿を見守りました。

### 全国からの注目を集める

市内で行われた応援の様子は、多くの報道機関の取材を受け、テレビや新聞、インターネットなどにより全国へ紹介されました。



▲加地亮選手

### 加地選手からのメッセージ

W杯出場できたことについて「正直、名前を呼ばれた時、ほっとしました。ほんとうにうれしいです」

地元で応援してくれている方へ「精一杯グラウンドを走ってチームのために頑張ってください」

子どもたちへのメッセージ「毎日頑張って練習すれば、もっともっと上手になれると思うので、監督・コーチの言うことを聞いて頑張ってください」

### これまでの軌跡

- 昭和55年1月13日生まれ
- 昭和60年4月、湊小学校に入学。西淡・湊サッカー少年団に入団。秋季兵庫県少年サッカー大会優勝、ミロカップ国際大会兵庫県代表

### 表ベスト16に貢献

- 平成3年4月、御原中学校に入学
- 平成6年4月、滝川第二高等学校に入学。インターハイ出場を果たす
- 平成10年2月、セレッソ大阪入団。同年5月、U-19日本代表に選ばれ、準優勝に貢献。同年6月、Jリーグ初出場。ナビスコ杯アビスパ福岡戦で初ゴール
- 平成12年、当時J2の大分トリニータへレンタル移籍
- 平成14年、FC東京へ移籍
- 平成15年9月、日本代表初選出。平成17年8月、代表初ゴール（対イラン戦）。ジーコジャパンの不動の右サイドバックとして活躍を続ける
- 平成18年1月、ガンバ大阪へ移籍

### 恩師・早川益弘監督（西淡・湊サッカー少年団現・御原FC）から

小学生のころの印象は「おとなしく頑張りやさん。このこという時に期待に込めてくれる子どもでした」  
加地選手の持ち味は「ずばぬけた持久力とスピード。スピードを生かした右サイドの突破」